

Causes and Consequences of Industrial Co-Agglomeration*

中島賢太郎[†] 齊藤（梅野）有希子[§]

Abstract

本稿は、異なる産業が同時に集積する現象である共集積に注目し、その要因と効果について分析したものである。まず、集積要因として、企業間取引、知識波及、労働プーリングを考え、これらの集積要因の指標と共集積指標（Ellison-Glaeser index）との関係を産業ごとに分析した。また、集積効果として、生産性との関係を分析するため、個々の事業所が他企業から受ける産業ごとの外部効果を指標化し、この指標と各産業の事業所の生産性との関係を分析した。この産業ペアごとの集積効果と3つの集積要因の指標の関係から、どのような集積要因が生産性と正の相関があるのかを分析した。分析の結果、集積を引き起こす要因としては、大多数の産業において、企業間取引の要因が強く働いていることが確認された。一方で、事業所ごとの生産性との関係からは、企業間取引関係よりも、知識波及関係の強い産業ペアの方が、事業所の生産性との正の相関が確認され、集積の外部性の波及経路としては、知識波及による効果が強いと考えられる。

Key words: Co-Agglomeration; Transaction Cost; Knowledge spillover; Labor Pooling

JEL codes: R11

* 本研究は、経済産業研究所の研究成果であり、工業統計調査、企業活動基本調査の個表データ、東京商工リサーチの取引関係のデータ、特許の公開広報データを用いて分析を行っている。また、東京大学空間情報科学研究センター（CSIS）のジオコードシステムを用いて、工業統計の事業所の住所データから、緯度経度情報へ変換を行った。

[†] 東北大学

[§] 経済産業研究所